

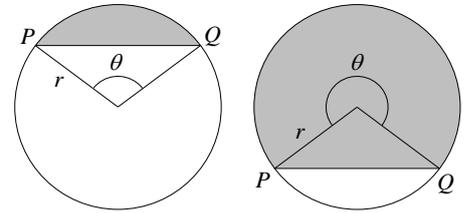
1994 年京大後期理 5

$S(r)$ は、長さ1の弧 PQ と、弦 PQ で囲まれた部分の面積である。

弧 PQ に対応する中心角を、 θ ($0 < \theta < 2\pi$) とすると $r\theta = 1$ ———①

$0 < \theta \leq \pi$ のとき $S(r) = \frac{1}{2}r^2\theta - \frac{1}{2}r^2 \sin \theta$

$\pi \leq \theta < 2\pi$ のとき $S(r) = \frac{1}{2}r^2\theta + \frac{1}{2}r^2 \sin(2\pi - \theta) = \frac{1}{2}r^2\theta - \frac{1}{2}r^2 \sin \theta$



結局、 $0 < \theta < 2\pi$ において、 $S(r) = \frac{1}{2}r^2(\theta - \sin \theta)$ が成立。

①より $r = \frac{1}{\theta}$ であるから $S(r) = \frac{\theta - \sin \theta}{2\theta^2}$ $f(\theta) = \frac{\theta - \sin \theta}{2\theta^2}$ とすると

$$f'(\theta) = \frac{(1 - \cos \theta)\theta^2 - (\theta - \sin \theta) \cdot 2\theta}{2\theta^4} = \frac{(1 - \cos \theta)\theta - 2(\theta - \sin \theta)}{2\theta^3} = \frac{2\sin \theta - \theta \cos \theta - \theta}{2\theta^3}$$

さらに $g(\theta) = 2\sin \theta - \theta \cos \theta - \theta$ とすると

$$g'(\theta) = 2\cos \theta - \cos \theta + \theta \sin \theta - 1 = \cos \theta + \theta \sin \theta - 1 \quad g''(\theta) = -\sin \theta + \sin \theta + \theta \cos \theta = \theta \cos \theta$$

$g'(\theta)$ の増減は右の通り。

$\theta = \frac{\pi}{2}$ のとき極大、 $\theta = \frac{3}{2}\pi$ のとき極小。

θ	0	...	$\frac{\pi}{2}$...	$\frac{3}{2}\pi$...	2π
$g''(\theta)$		+	0	-	0	+	0
$g'(\theta)$	0	↗		↘		↗	0

$g'(\frac{\pi}{2}) > 0$, $g'(\pi) = -2 < 0$ より、 $\frac{\pi}{2} < \theta < \pi$ において、

$g'(\theta) = 0$ となる θ が存在する。

これを α とすると、 $g(\theta)$ の増減は右の通り。

$\alpha < \theta < 2\pi$ において $g(\theta)$ は単調減少であり、 $g(\pi) = 0$ であるから

$0 < \theta < \pi$ のとき $g(\theta) > 0$ 、 $\pi < \theta < 2\pi$ のとき $g(\theta) < 0$

θ	0	...	α	...	2π
$g'(\theta)$		+	0	-	
$g(\theta)$	0	↗		↘	-4π

以上により、 $f(\theta)$ の増減は右の通りであり、 $\theta = \pi$ のとき極大。

求める最大値は $f(\pi) = \frac{1}{2\pi}$ ……(答) このとき、 $r = \frac{1}{\pi}$ である。

θ	0	...	π	...	2π
$f'(\theta)$		+	0	-	
$f(\theta)$		↗		↘	

※ $S(r) = \frac{1}{2}(r - r^2 \sin \frac{1}{r})$ と r の関数にしてしまうと、処理が困難である。